



第4期スポーツ基本計画における 目標について(論点)

令和8年1月29日

第4期スポーツ基本計画の目標設定についての考え方

【基本計画における目標等の設定についての考え方（たたき台）】

1. スポーツを通じた社会課題※の解決や、自然・社会環境の変化に対応した環境づくりを目指し、目標等を設定

※健康長寿社会や共生社会の実現、地域や経済の活性化、デジタル化の中での豊かなつながり等

- 目標に掲げる指標等は、単なる積み上げではなく、社会課題の解決の観点から検討。必要かつ現実的な目標となるよう留意。

2. 幅広い分野の関係者が共感でき、目標実現に必要な投資や人の流れを生み出す視点を重視

- 分野縦割りではなく、体系的に分かりやすく示すことを意識。

3. 幼児期から高齢期まで生涯を見通したウェルビーイングの実現と、社会の成長・発展に貢献する視点を重視

- 一人一人のライフスタイルや環境の違い、地域差等も踏まえつつ、意識や行動の変化を促す。

4. アスリート・ウェルビーイングを土台としたハイパフォーマンスの追求

- メダル獲得数だけではなく、アスリートに配慮した国際競技力の向上を目指す。

第4期スポーツ基本計画の目標設定についての考え方

目標設定についての基本的な考え方としては、以下のとおりでよいか。

- 誰もが生涯を通じてスポーツを継続できる環境を実現するために、主要な課題に対してその解決につながる具体的な数値目標とする。
- 上記を踏まえ、重点対象※ごとに目標を設定することを基本とする。
※「児童・生徒期」、「学生期」、「働く世代(20~50代)」、「20~40代女性」、「障害者」、「地方」
- 数値目標は、その達成に必要となる手段(対策)※も念頭に置きつつ、設定することとする。
※スポーツ庁の取組だけでなく、様々なステークホルダーによる取組や他省庁との連携も含む

第4期スポーツ基本計画の目標 ー幼児・児童・生徒期

(学校体育等について)

- 幼児期からの運動習慣形成、幼児期と小学校体育等との接続や、発達段階等を踏まえた子供たちの内発的動機づけに基づく活動機会の一層の充実等を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現につながる資質・能力の育成を目指すことを目指してはどうか。
- 今後、中央教育審議会での指導要領改訂の議論も踏まえ、目標については更に検討を進めていく。
- 数値目標については、運動時間が長い、または運動が好き、興味や関心がある児童生徒は、他の児童生徒に比べて体力合計点が高くなる傾向があるという分析を踏まえ、運動時間、運動への意識、総合的な体力、の3つの軸で設定してはどうか。

第4期スポーツ基本計画の目標 – 幼児・児童・生徒期

(部活動の地域展開等について)

- 少子化が進む中でも、生徒が継続的にスポーツに親しむ機会を確保・充実するため、令和7年12月に策定した部活動改革に関する新たなガイドラインに基づき、令和8年度からの「改革実行期間」における部活動の地域展開等の取組を着実に進める必要。
- その際、単に現状の部活動をそのまま地域で実施するだけでなく、
①障害のある生徒や運動が苦手な生徒等を含め、全ての生徒が希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備することや、②部活動の教育的意義を継承・発展させつつ、地域全体で支えることによる新たな価値を創出すること、③この改革を機に、中学校等の生徒のみならず全ての人々のスポーツ活動の充実や、スポーツを通じた地域社会の維持・活性化などに繋げていくことなども視点として持ちつつ、改革を進めることが重要ではないか。
- 数値目標としては、新たなガイドラインにおける目標・スケジュールを踏まえ、部活動の地域展開等に取り組む自治体数や地域展開等を行った部活動数などを設定してはどうか。

(参考) 部活動改革の関する新たなガイドラインにおける目標・スケジュール

- ・改革実行期間の前期(R8~10)の間に、確実に休日の部活動の地域展開等に着手
- ・改革実行期間内(R8~13)に、原則、全ての休日の部活動において地域展開の実現を目指す

第4期スポーツ基本計画の目標 – 学生期

- 学生期にスポーツ実施レベルが大きく落ち込んでいる現状を踏まえ、新たに、学生期に着目した数値目標を設定する方針でよいか。
- 週1回以上のスポーツ実施率の数値目標を設定してはどうか。具体的な目標は、以下を参考に希望率の実現を目指すこととしてはどうか。
 - ・ 令和7年調査における学生の週1回以上のスポーツ実施率 : 60.9%*
 - ・ 令和7年調査における学生の週1回以上のスポーツ実施希望率 : 66.9%*

*18~24歳の数値

学生の週1回以上のスポーツ実施率目標(案) : 65 %*

第4期スポーツ基本計画の目標 – 働く世代(20~50代)

- 成人全体ではなく、スポーツ実施率が低い働く世代をターゲットとし、週1回以上のスポーツ実施率の数値目標を設定してはどうか。具体的な目標は、以下を参考に希望率の実現を目指すこととしてはどうか。

- ・ 令和7年調査における働く世代の週1回以上のスポーツ実施率 : 47.2%
- ・ 令和7年調査における働く世代の週1回以上のスポーツ実施希望率 : 59.1%

働く世代の週1回以上のスポーツ実施率目標(案) : 60 %

- スポーツ実施の質を確保するための目標として、週当たりのスポーツ実施時間の数値目標を設定してはどうか。具体的な目標は、以下の実績や健康日本21・WHOガイドライン等を参考に設定してはどうか。
 - ・ 令和7年調査における働く世代の週当たりのスポーツ実施時間 : 148.2分

働く世代の週当たりのスポーツ実施時間目標(案) : 210分

- 年1回程度のスポーツ実施は、習慣化の観点からも、スポーツの価値の享受の観点からも、効果が見込まれないため、年1回以上のスポーツ実施率の数値目標は設定しないことでよいか。

第4期スポーツ基本計画の目標 – 働く世代(20~50代)

(続き)

- 企業の取り組みが働く世代のスポーツ実施率を有意に向上させることから、従業員の運動促進に取り組む企業割合を数値目標として設定してはどうか。具体的な目標は以下の実績を参考に設定してはどうか。
 - ・令和7年調査における従業員の運動促進に取り組む企業割合：21.3%

従業員の運動促進に取り組む企業割合の目標(案)：30%

(参考①)第3期スポーツ基本計画の数値目標

	成人(20歳以上)	働く世代・子育て世代
週1回以上のスポーツ実施率	70%	向上を目指す
年1回以上のスポーツ実施率	100%に近づく	—
運動習慣者(30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上1年以上継続している者)割合	増加を目指す	—
スポーツ実施に積極的に取り組む民間事業者		増加

(参考②)その他関連する数値目標

- ・健康日本21(第三次) (R14目標) 1日の歩数平均値:7,100歩 運動習慣者割合:40%
- ・WHO身体活動・座位行動ガイドライン 中程度の有酸素性の身体活動:少なくとも週150~300分
高程度の有酸素性の身体活動:少なくとも週75~150分

第4期スポーツ基本計画の目標 – 働く世代の女性

- 働く世代においてスポーツ実施率の男女差が拡大していることから、男女差について、スポーツ実施率の目標を設定してはどうか。具体的な目標は、以下の実績を参考に設定してはどうか。

- 令和7年調査における働く世代の週1回以上のスポーツ実施率の男女差の推移
R3:5.6% R4:6.7% R5:8.8% R6: 9.2% R7: 9.0%

働く世代の週1回以上のスポーツ実施率目標(案)：男女差をなくす

- 20~40代女性の体力低下が顕著なため、体力の数値目標を設定してはどうか。具体的な目標は、以下の実績を参考に設定してはどうか。

- 20~40代女性の新体力テスト総合評価C以上の割合の推移
H16:68.4% H21:66.6% H26:64.5% R1:63.8% R6:61.9%

20~40代女性の体力目標(案)：新体力テストの総合評価がC以上である割合の低下に歯止めをかけ、増加に転じさせる

(参考)第3期スポーツ基本計画の数値目標

	成人(20歳以上)	女性
週1回以上のスポーツ実施率	70%	向上

第4期スポーツ基本計画の目標－障害者

- スポーツ実施率の数値目標について、①週1回以上の実施率は実施状況を示す目標として継続して設定、②年1回以上の実施率はスポーツ実施の習慣化に資するものではないため廃止でよいか。
- ①については、さらに、数値目標を10ポイント以上下回る都道府県を半減させる等、地域に着目した数値目標は考えられるか。
- 共生社会の指標として、現行の「障害者スポーツの体験割合」の指標ではなく、例えば、障害のない者とともにスポーツを実施する割合等、他に適切な指標は考えられるか。
- 上記の他、新たに指標として、追加を検討すべきものはあるか。

(例) 指標の例

- ・ 地域における障害者スポーツ計画策定・公表の状況
- ・ スポーツ指導者の障害者へのスポーツ指導に関する能力向上

(参考)第3期スポーツ基本計画の数値目標

	成人(20歳以上)	若年層
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	40%	50%
障害者の年1回以上のスポーツ実施率	70%	80%
障害者スポーツを体験したことのある者の割合		20%

第4期スポーツ基本計画の目標 – 地域格差

- スポーツ実施状況の地域格差の是正に向けた数値目標を設定はどうか。具体的な目標は、以下を参考に設定してはどうか。

- 過去3年合算による都道府県別週1回以上のスポーツ実施率の最大差
R4-R6 : 11.6%(東京都-福井県) R5-R7 : 11.1%(東京都-山形県)

スポーツ実施状況の地域格差の是正に向けた数値目標(案)

都道府県別の実施率の平均を引き上げつつ、
最大値と最小値の差を縮小する(3年合算による平均値)

(参考)第3期スポーツ基本計画の数値目標

- ・ スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合:40%
- ・ 安全で持続可能な地域スポーツ環境の質的・量的充実
- ・ より幅広いニーズに応えられる地域スポーツ環境の構築
- ・ 住民と各自のニーズに合ったスポーツの場とのマッチング促進

第4期スポーツ基本計画の目標 – 安全・安心

- スポーツ中の事故について、数値目標を設定することについてどう考えるか(数値目標として、どのようなものが考えられるか)。設定する場合、以下の関連データは参考とできるか。

- スポーツ安全保険におけるスポーツ中の事故の発生状況

		R3	R4	R5
スポーツ安全保険	負傷件数	134,788	169,883	174,905
	後遺障害件数	338	432	390
	死亡件数	12	16	17

(参考)第3期スポーツ基本計画の数値目標

- ・ 多様な国民一人一人が安全・安心に、楽しくスポーツを実施できるような環境整備